

# 都市再生整備計画事業 事後評価シート

阪神尼崎駅周辺地区

令和4年3月

兵庫県尼崎市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	兵庫県	市町村名	尼崎市	地区名	阪神尼崎駅周辺地区			面積	83ha
交付期間	平成28年度～令和2年度	事後評価実施時期	令和3年度	交付対象事業費	2,764.0	国費率	0.5		

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名								
	基幹事業		城址公園整備事業、公開空地遊歩道整備事業、観光案内情報板設置事業、歴史館機能整備事業、成良中学校琴城分校移転整備事業								
	提案事業		-								
			事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
	当初計画から削除した事業		基幹事業		-						
			提案事業		-						
		新たに追加した事業		基幹事業		市道第58号線道路整備事業		事業の追加		来訪者の良好な歩行空間を確保するもので、目標に掲げた「交流人口の周遊性の向上」、「地域経済活動の活性化」に寄与する。	
				提案事業		地域創造支援事業(観光案内板設置に係る基本計画の策定、尼崎城内・博物館内の展示物の企画、設計、設置)、事業活用調査(事業効果分析調査)、まちづくり活動推進事業(観光基盤整備)		「都市構造再編集集中支援事業」への移行に伴う事業の再編		「歴史館機能内部展示設置事業」により館内の展示を充実させ、来訪者増につながることから、目標来場者数を上方修正した。	
交付期間の変更		当初変更		平成28年度～令和2年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響					

指標	単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
		基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	人	16,116	H26	50,000	R2		43,775	△	あり	文化財収蔵庫と公文書館の機能を併せ持つ歴史館機能として再編成された「歴史博物館」は、令和2年10月のオープン後2カ月で来館者数が10,000人を突破したことは、都市再生整備計画事業の効果であるといえる。	
									なし	ただし、新型コロナウイルス感染症(以下「コロナ」とする。)第3波の到来と、それに続く緊急事態宣言の発出により、翌12月から来館者数が減少しており、評価値も、目標達成率88%にとどまる結果となった。	
指標2	%	56	H26	77	R2		50	×	あり	歴史館機能・城址公園の整備、観光情報案内板の設置、展示物の充実などを通じて、本市の歴史文化という新たな都市イメージを広く周知することで、市民の歴史に対する関心が高まることを期待したが、コロナの影響により市民がこれらを訪れ触れる機会が制限されたことから、現時点では事業効果は確認できていない。	
									なし	今後は、市民が歴史に触れ学ぶ機会のさらなる創出に向け、学校等の教育機関と連携した取組みを進めるなどで、わがまちに対する誇りや愛着の醸成を図るとともに、歴史に関心を持つ市民の割合の増加を目指す。	





様式2-2 地区の概要

阪神尼崎駅周辺地区(兵庫県尼崎市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
<b>【大目標】</b> 都心と歴史文化ゾーンが調和した交流と学びの拠点 目標1: 本市の歴史・文化資源を活かすことで都市の魅力向上と交流人口の増加を図り、散在する地域資源をつなぎ、周遊性を高め、地域の経済活動の活性化を目指す。 目標2: 都心の低未利用地及び既存公共建築物を活用することで、都市拠点としての機能強化とまちなかの再生を目指す。 目標3: 歴史文化という新たな都市イメージを付加することで、市民のまちに対する誇りや愛着の醸成を目指す。 目標4: 交流人口の周遊性を高め、地域経済活動の活性化を目指す。	歴史館機能の来場者数	単位: 人	16,116 H26	50,000 R2	43,775 R3
	尼崎の歴史に関心を持っている市民の割合	単位: %	56 H26	77 R2	50 R3
	城址公園の利用者数	単位: 円	— H26	150,000 R2	32,166 R3
	地区中心地の地価の上昇	単位: 人	372,000 H26	390,000 R2	414,000 R3
	商店空き店舗数増加傾向の抑制	単位: 軒/年	2 H28	0 R2	△ 10 R3



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・城址公園を一体整備したことにより、市民が憩え、歴史を再認識する場を提供することができた。また、歴史博物館を再整備したことにより、来館者に尼崎の歴史にふれる機会を提供することができた。</li> <li>・23基の案内板を設置したことで、地区内の周遊を促した。また、公共用地をセットバックして公開空地として整備したことにより、歩行者の安全と歴史博物館へのネットワークを確保することができた。</li> <li>・尼崎城及び歴史博物館の内部展示について、コンテンツ制作や環境整備を行い、歴史文化の発信にふさわしい環境として整備することができた。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後は、市民が歴史に触れ学ぶ機会をさらなる創出に向け、学校等の教育機関と連携した取組みを進めるなどで、わがまちに対する誇りや愛着の醸成を図る。</li> <li>・コロナ禍においても持続可能なマイクロツーリズムの普及を見据え、これらの施設を観光資源として有効活用できる観光振興施策の構築や、本市の歴史に触れる機会をさらなる提供などのほか、隣接する阪神大物駅周辺地区との連携により周遊性を高め、地区内への来訪を促進させる。</li> <li>・阪神尼崎駅周辺のエリア一体における人流・滞留の向上のため、阪神尼崎駅周辺の公共施設の管理の効率化を行うとともに、地域資源を活かした一体的な賑わいを創出する取組みを進め、魅力ある地域づくりを推進していく。</li> </ul>